

TOKIO MARINE Topics (物流関連速報)

米国の貨物盗難の現状と傾向

(2021年9月10日)

米国では貨物盗難は依然として荷主・運送会社の皆様にとって頭の痛い問題です。本号では、調査機関 Sensitech 社が 2020 年に発生した計 870 件の貨物盗難を集計・分析した内容をもとに米国における貨物盗難の状況をご報告いたします。

1. 米国貨物盗難の現状

Sensitech 社の集計では、2020 年に 870 件の貨物盗難が報告されました。2020 年の盗難事故 1 件当たりの平均損害額は 166,854 ドルで、2019 年と比較して 41%増加しています。

州別には、発生数が最も多かったのがカリフォルニア州 (20%)、次いでテキサス州(18%)、フロリダ州(10%)でした。

注目すべきは下記2点です。

① 盗難品目の変化

新型コロナウイルスの影響を受け、医薬品(消毒液・個人用防護服および人工呼吸器)・トイレトーパー等の紙製品の盗難件数が増加しました。その結果、種類別では「その他雑貨」が初めてトップとなり、全体の 23%を占めました。盗難品の分類別割合・平均損害額については、右表のとおりです。

盗難品の種類			
その他雑貨	23%	介護用品	5%
家庭用品	19%	服・靴	4%
飲食品	15%	医薬品	3%
電気製品	12%	アルコール	3%
建築・工業製品	7%	金属	2%
自動車・部品	6%	タバコ	1%
平均損害額			
その他雑貨	\$80,229	介護用品	\$154,127
家庭用品	\$65,649	服・靴	\$586,347
飲食品	\$85,950	医薬品	\$449,125
電気製品	\$292,095	アルコール	\$97,134
建築・工業製品	\$74,279	金属	\$252,487
自動車・部品	\$75,019	タバコ	\$224,707

② 盗難手口の変化

手口については「抜き荷」が大幅に増え、全体の 43%を占めています。特に混載便での日用品の被害が相次ぎました。

トラック毎の盗難も多い中、抜き荷も増加傾向にあり、平均損害額も増加していることから、米国内での盗難リスクの高まりがうかがえます。

※出典資料をもとに作成

2. 貨物盗難の発生場所・手口

米国の貨物盗難は、主にトレーラーやトラックが駐車しているところを狙う傾向があります。輸送中の貨物も、週末は無人のまま荷動きがないことが多く、その隙を突いて多くの盗難が発生しています。結果として、土日での盗難件数が全体の 36%を占めており、金曜日を含めると 52%にまで上昇します。

盗難発生場所別に見ても、盗難件数のうち 87%が「安全対策が不十分な駐車場」で発生しており、2019 年の 80%から増加しています。一方、安全対策がなされている駐車場で発生した盗難の件数は、2019 年には全体の 7%だったのが 2020 年には 5%に微減しました。

また、盗難件数に占める抜き荷の件数割合は、昨年度より 15%増加し 43%まで跳ね上がっています。「トラックごとの盗難」も依然として全体の 50%を超えており、注意が必要です。



【出展】・Sensitech Supply Chain Intelligence Center,

“Cargo Theft Intelligence Report - United States Edition 2020 Annual Report”

本 Topics に関するお問い合わせ、ご意見、ご感想等ございましたら、弊社営業担当までお寄せください。編集にあたっては万全の注意を行っていますが、本 Topics 情報の正確性を保証するものではなく、これにより生じたいかなる損害に対して弊社は一切の責任を負わないものとします。



マリントピックス バックナンバー